

☆\*。。。\*☆\*。。。\*☆\*。。。\*☆\*。。。\*☆\*。。。\*☆

◆ エース365 ..... 2011/03/04号 ◆

◆ ☆FXディーラー プレミアムレポート ☆ ◆

☆\*:::;::;\*★\*:::;::;\*☆\*:::;::;\*★\*:::;::;\*☆

■ \*==\*==\*○ . . . \* . : ..... . : , ○ =\*==\*==\* ■

『外国為替投資戦略』

松田トラスト&インベストメント株式会社 代表取締役 松田 哲

■ \*==\*==\*:. . . . : \*●\*:. . . . : ○:. . . . : \*●\*:. . . . : ○:. =\*==\*==\* ■

■ 円高トレンド継続、売りシグナル待ち

ドル/円は、引き続き、想定されるレンジ内（80.00-84.50）にあります。  
 だから、まだ、ドル/円は、こう着状態にある、とも言えます。

しかし、外国為替市場全体を見渡すと、中東情勢の不安定を材料に、少し動き出した（今後、動き出す）可能性を感じています。

しかしながら、それぞれのマーケットは、（株式市場、債券市場、原油市場、ゴールド市場、そして、通貨市場では、それぞれの通貨ペアでは、）それぞれの反応が起きています。

つまり、それぞれの反応には、整合性が無い、統一性が無い、といった印象です。

『中東、北アフリカ情勢が、今後どうなるのか？』現時点で判断がつかないことが大きな理由だ、と考えます。だから、時間の経過に伴い、整合性は出てくる、と考えています。

それぞれのマーケットで、それぞれの反応が起こっている間は、自分の持っているポジションに不都合があれば、適宜、損切りを敢行して、自分を守るオペレーションも重要です。

最終的に、マーケットは、正しい判断を下すと考えますが、その経過的な期間では、妙な方向にぶれたり、ポジション調整から、乱高下をするからです。

●添付の「ドル/円（USD/JPY）日足チャート」

(2011Mar04-USDJPY-Daily001) をご覧ください。

→ <http://www.acefx.jp/images/report/110304-1.GIF>

ドル／円は、2010年9月下旬から現在（2011年03月）に至る、5か月程度の期間は、『80円から84円台ミドルの安値圏でのボックス相場』を形成しています。

当面のところは、【ピンクの水平線】で表示した、レジスタンス・レベル（=84.50）が、有効であるか、否か、に注目します。

※2月中旬（2月16日）には、84.00に近づいたのですが、高値は [83.95-00] レベルで、結局、84.00には届きませんでした。

つまり、依然として何も変化なく、

『【ピンクの水平線】で表示したレジスタンス・レベル（=84.50）は、昨年（2010年）の9月下旬以降、有効であり続けている』ということです。

仮に、84.50を上を抜けても、次のレジスタンス・レベル（=86.00）が控えています。

※84.50を上を抜けても、2010年8月中旬から現在（2011年02月）に至る、半年程度の期間で、『80円から86円の安値圏でのボックス相場』を形成している、という状態になるだけです。

だから、86.00を上を抜けて行かない限り、現在の『ドル安円高トレンド』が、持続している、と考えます。

（財務大臣の命令により、）日銀が「ドル買い円売り介入」を実施したのは、昨年（2010年）の9月15日でした。

ドル／円の日足チャートを見ると、2010年9月15日の大陽線（大上昇を示すローソク足）が目立ちます。

この大陽線は、日銀の『ドル買い円売り介入』による『特殊な値動き』を示しています。

「9月15日の介入」が実施された後で、上に抜けることのできなかつた85.94は、多くの市場参加者が意識するレベル（=為替水準）です。

つまり、86.00アラウンドは、チャート・ポイントであり、『86円台が、強いレジスタンス・レベル（強い抵抗水準）になる』ということです。  
（=86.00近辺は、ドル売りオーダーが集中するはず）

86円台に届くような相場展開になるようならば、上述の通りですが、84円台ミドル

程度が、このところの「戻り高値」になっています。

※84円台ミドルを上を抜けることが出来なければ、86.00アラウンドのチャート・ポイントを、今の時点で、考える必要がありません。

●添付の「ドル／円 (USD/JPY) 日足チャート」(2011Mar04-USDJPY-Daily002) をご覧ください。※180本足 (=180日) のチャートです。

→ <http://www.acefx.jp/images/report/110304-2.GIF>

ドル／円の日足チャート (Daily001) の後半部分を拡大した格好になります。

上記に述べた通りに、ドル／円は、2010年9月下旬から現在 (2011年03月) に至る、5か月程度の期間は、『80円から84円台ミドルの安値圏でのボックス相場』を形成しています。

ドル／円の最後の形状が、2月16日の高値 [83.95-00] レベルから、いわゆる『三羽鳥 (さんばがらす) 』になっています。

※『三羽鳥 (さんばがらす) 』 = 陰線 (下げを示す黒い日足) が3本並び、徐々に相場が崩れている形状 (徐々に下落していることを示す形状)

『三羽鳥 (さんばがらす) 』は、「売りのシグナル」ですから、今後、急落することを示唆している可能性があります。

2月下旬のドル／円の動きは、その通りに動いた、と考えます。

つまり、『三羽鳥 (さんばがらす) 』の「売りのシグナル」通りに下落した、と考えます。

●添付の「ドル／円 (USD/JPY) 日足チャート」(2011Mar04-USDJPY-Daily003) をご覧ください。

→ <http://www.acefx.jp/images/report/110304-3.GIF>

直近の相場の拡大図です。

2月16日～18日 (3営業日) で、『三羽鳥 (さんばがらす) 』を形成しています。

※添付チャートには、【緑の四角】で表示しています。これが、「売りのシグナル」だった、と考えます。

このシグナルは、シグナル通りに、81円台にまで下落しました。

さらに、2月19日に、小休止の1日（1営業日）を挟んで、2月22日～24日（3営業日）で、再び、『三羽鳥（さんばがらす）』を形成しています。

※添付チャートには、【ピンクの四角】で表示しています。つまり、再度、「売りのシグナル」を発しています。

81円台ミドルを明確に下に抜けて、80円台を見る場合は、もう一段の急落の可能性に、十分に気を付ける必要を感じます。

ただし、80.00（正確には、2010年11月の安値80.20-30レベル）は、上述した、2010年9月下旬から現在（2011年03月）に至る、5か月程度続いた、『80円から84円台ミドルの安値圏でのボックス相場』の下限に当たります。

だから、ボックス相場のセオリーに従うと、高値圏で（上値で）売っている場合は、80円台ミドル程度で、「買戻しの利食い」を行うべきところ、でもあります。

※こういったケースでは、どのように対応すれば良いのでしょうか？

セオリーに従いながらも、大きな相場にも対応するのならば、高値圏で（上値で）売っている場合は、80円台ミドル程度で、「買戻しの利食い」を行う。

そして、80.00を割り込んで、79円台を見る場合は、勇気を持って、改めて、ドル円を売る、ということ。

新安値を更新する場合は、明確な「売りシグナル」です。

※先週末（2月25日金曜日）、今週初（2月28日月曜日）の値動きは、ほとんど動きらしい動きが無く、日足チャートの形状では、小さな陰線と、小さな陽線を作っています。

これは、小休止を意味するだけで、何かしらの変化を示してはいません。  
（2月19日の小休止と同じ動きだ、と考えます）

その後の値動きでは、つまり、今週（2011年3月の第1週）は、下値トライをしたのですが、81円台ミドルを下に抜けることが出来ずに、その結果、81円台後半で、こう着状態でした。

本日（3月4日）に、米国雇用統計を控えているために、昨日（3月3日）は、目先のポジション調整が起こった、と考えています。

つまり、ドルの買戻しから、82円台ミドルへの急反発を見えています。  
しかし、大局で見れば、引き続き、『ボックス相場』の中での小動きに過ぎません。

戦術としては、目先のレジスタンス・レベル（＝84.50）よりも上にストップ・ロス・オーダーを置いて、「ドル売り円買い」がセオリーと考えます。

つまり、84.60-80程度にストップ・ロス・オーダーを置いて、「ドル売り円買い」がセオリー（定石）と考えます。

仮に、そのストップ・ロスが付いても、86.00よりも上にストップ・ロス・オーダーを置いて、改めて「ドル売り円買い」を行うのがセオリー（定石）と考えます。

※今週の急落で、84円台は、かなり遠くなった印象ですが、ストップ・ロス・オーダーを近づける（トレーリング）は、行わない（行えない）、と考えます。

上述の通りに、ドル／円は、2010年9月下旬から現在（2011年03月）に至る、5か月程度の期間は、『80円から84円台ミドルの安値圏でのボックス相場』を形成しています。

ボックス相場は、未来永劫続くことはありません。

必ず、近い将来（近い未来）に、『80.00を下に抜ける』あるいは、『84.50を上を抜ける』ということになります。

この『近い将来の時間』が、どのくらいの時間（期間）なのかは、事前には、誰にも分かりません。（誰にとっても、事前に、予測することは不可能です）

※引き続き、個人的には、80.00を下に抜ける可能性が高い、と考えています。  
（考え方に変化が無いことは、上記に記述した通りです）

※ボックス相場のセオリーに従い、『ボックス相場の上限近くで売り、下限近くで買い、ボックス相場を抜けたならば、抜けた方向について行く』といった戦術も有効と考えます。

●添付の「ドル／円（USD/JPY）週足チャート」（2011Mar04-USDJPY-Weekly）をご覧ください。※300本足（＝300週）のチャートです。

→ <http://www.acefx.jp/images/report/110304-4.GIF>

現在のレジスタンス・ラインを【緑の破線（太線）】で示しています。

ドル／円は、2007年6月から現在に至るまで、ずっと、このレジスタンス・ライン

【緑の破線（太線）】に従っています。

だから、ドル／円のトレンドは、『ドル安円高トレンド』で、変わっていない、と判断しています。

※【緑の破線（細線）】は、【緑の破線（太線）】の平行線です。

『ドル／円の値動きが、長期にわたり、2本の平行線の内側にある』ということは、すなわち、『ドル／円が、この線（レジスタンス・ライン【緑の破線】）の傾きに従って、一定のスピードで下落を続けている』と断言できる、ということです。

ドル／円の週足チャートを見るならば、今回のドル／円下落の起点は、「2007年6月の高値124円台」です。

ドル／円は、2007年6月の高値124円台から、3年半以上に渡り、この線（レジスタンス・ライン）の傾きに従って、一定のスピードで下落を続けています。

また、『その傾向（トレンド）が現在も持続している』と、現時点では断定できます。

反転の兆し（＝トレンド転換を示唆するシグナル）は、今のところ、見当たりません。

反転の兆しと言うには、このレジスタンス・ライン【緑の破線（太線）】を上を抜ける必要を感じます。

※80.00を、【青の水平線】で表示しています。

このサポート・ライン【青の水平線】を、明確に下に抜ける場合は、勇気を持って、「売り」で付いて行くところ、と考えます。

（2011年03月04日東京時間13：30記述）

□ ■ ————— ↓↓↓ ログイン画面はこちら ↓↓↓ —————  
<https://www.click365-system.com/acekoeki/PCUI/DAUTW000.do?DummyButton=lnit>  
..... ■ □

☆エース365／FXディーラープレミアムレポートご紹介ページ☆  
[http://www.fx-365.jp/premium\\_report/](http://www.fx-365.jp/premium_report/)

————— 【ご注意】 —————

本相場見通しは、投資に関する断定的判断を提供、またその内容に関する責任の一切を負うものではありません。投資の最終判断はご自身でお願い致します。

---

※このメールは、エース取引株式会社からのお知らせをお送りすることにご了承いただいている方へお送りしています。

※メール配信の停止を希望される方はこちらから↓

<http://r26.smp.ne.jp/o/Pg/165539/93-1BkH7ci0D/out?stop=k>

---

エース取引株式会社 FXオンライントレード部 エース365担当  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-29-24 エースファーストビル  
フリーコール 0120-7464-90 TEL:03-5485-4494  
FAX:03-5485-5081 mail: click-fx@acekoeki.co.jp  
ホームページ <http://www.fx-365.jp/index.html>  
大阪証券取引所 JASDAQ市場上場（銘柄コード：8749）  
金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第251号  
（社）金融先物取引業協会会員

---

取引所為替証拠金取引「エース365」（以下、本サービスといいます）を提供する者の名称はエース取引株式会社（登録番号：関東財務局長（金商）第251号）で、（社）金融先物取引業協会に加入している金融商品取引業者です。

- ・本サービスの最低取引単位（1枚）は1万通貨または10万通貨単位（※1）です。売買手数料は、1枚当り片道税込210円～1,050円（日計り決済時105円～630円）、預託していただく証拠金の額は、1枚あたり取引金額（想定元本）の2%以上で、通貨ペアの種類により決まります。
- ・実際の取引金額は、証拠金の額に比して大きいため、少額の資金で大きなポジションを保有することが可能ですが、その損失の額が預託していただいた証拠金額を上回る可能性があります。
- ・証拠金に対する取引金額の比率は50倍以下です。また、日々の為替レートや証拠金額の変更等で異なります。
- ・ロスカットルールは、お客様の資産の損失拡大を防ぐためのルールですが、必ずしもお客様の損失を限定するものではありません。各国の政治、経済状況の変化及びそれに関連する金融市場の変化、金利相場、経済指標の数値の変動等により、急激な相場変動が起こった場合、預託した証拠金の損失、若しくは預託した証拠金を上回る損失となる可能性があります。
- ・当社が提示する各通貨ペアには売付けと買付けに価格差があり、またスワップポイントには支払いと受け取りがあります。
- ・スワップポイントは、各国の信用状況や金利情勢等により日々変動し、取引対象である通貨の金利変動により受け取りから支払いに転じることがあります。

・本サービスは、お客様から預託を受けた証拠金が当社に滞留する場合には、お客様の資産を安全に確保するため、三井住友銀行の信託保全サービス「クリアリングトラスト」を実施しておりますが、法令上要求される区分管理必要額算出日と追加信託期限に時間差等があることから、いかなる状況でも必ずお客様からお預りした証拠金等が全額返還されることを保証するものではありません。

上記リスクは、本サービスにおける主なリスクについて記載したのですが、これがすべてとは限りません。

ご契約の際は契約締結前交付書面を十分に熟読の上、リスクや取引の仕組み等の内容をよくご理解いただき、ご自身の判断と責任のうえお申込みください。

(※1) ランド／円、香港ドル／円、スウェーデン・クローナ／円、ノルウェー・クローネ／円の取引単位は10万通貨、それ以外の通貨ペアは1万通貨単位です。

お客さまのご相談連絡先：当社本社内／コンプライアンス部（電話：03-5485-4161）、若しくは証券・金融商品あっせん相談センター（電話：0120-64-5005）にお願いいたします。

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第251号  
(社) 金融先物取引業協会会員 (会員番号1307)

取引所為替証拠金取引「エース365」は、エース交易株式会社の登録商標です。

---

・お客様の個人情報は、当社の個人情報保護ポリシーに基づき、適切に管理させていただきます。

個人情報保護ポリシー：<http://www.fx-365.jp/privacy.html>

---

・電子メールの特性上、送信過程で内容欠落、送信遅延、ウィルスの混入その他の不都合が生じることがございます。これらにつきましてエース交易株式会社は責を負いかねますのでご了承下さい。また、エース交易株式会社は本メールの発信を監視する権限を持っています。

・当社に関するお問い合わせは下記URLよりお願いします。

<http://www.acekoeki.co.jp/contact/>

---